

②入れない対策（自己防衛）

田畑の農作物を守るために欠かせないのが防護柵です。防護柵を設置する際には、次のことに注意しましょう。

○設置にあたっての3原則

- ①柵に切れ目をつくらない（原則、四方を囲う）
- ②柵の内と外を1m程度刈りはらう
- ③こまめに、丁寧に点検する

作業前



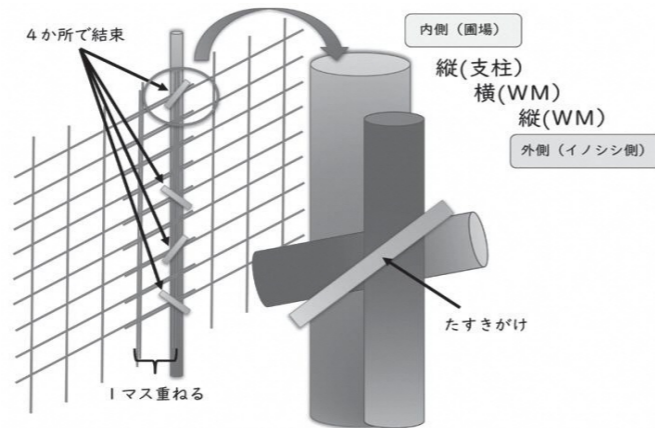
作業後



補修・点検しやすいよう、こまめに除草しましょう

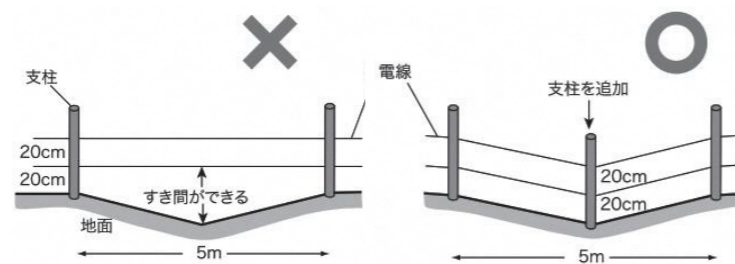
◆ワイヤーメッシュ柵設置のポイント

- ①すき間をつくらない
 - ・柵の下部を地面に埋め込む
 - ・出入口を閉め忘れないように注意する
- ②正しく結束する
 - ・支柱との結束は4カ所、たすきがけで結ぶ
 - ・柵の内側、外側の向きに注意する
- ③高さを確保する
 - ・イノシシ用は80cm、シカ用は180cmの高さを確保する
 - ・斜面は避けるか、かさ上げをする



◆電気柵設置のポイント

- ①24時間通電する
 - ・「痛くない」と誤学習させない
 - ・こまめに電圧を測る（4,000V以上）
- ②電線の高さに注意
 - ・イノシシ用は、地面から20cm、40cmの高さに2段張る
 - ・斜面や凹凸部は、支柱を増やしてすき間ができないようにする



農作物被害を防ぐ防護柵の設置を支援する補助金制度があります。詳しくは、産業振興課へお問い合わせください。

③捕まえる対策（加害獣の捕獲）

市では、猟友会瀬戸内分会有害鳥獣駆除班と連携し、捕獲行為に伴う事故がないよう、地域の安全などに十分配慮しながら捕獲を実施しています。くり返し被害が発生している場合などは、市役所へご相談ください。ただし、初めから捕獲だけに頼るのではなく、まずは「寄せない対策」や「入れない対策」に取り組みましょう。



野生鳥獣被害防止マニュアル
—総合対策編—



野生鳥獣被害防止マニュアル
イノシシ、シカ、サル実践編

※本記事は、一般的な対策を講じるもので、実際には農地ごとの条件に合わせて対策を行う必要があります。なお、本記事は「野生鳥獣被害防止マニュアル—総合対策編—」（農林水産省）を参考に作成しています。※記事内の図は「野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ、シカ、サル実践編」から引用しています。

鳥獣被害を防ぐために

農産業振興課
☎0869-24-7221

近年、野生鳥獣による農作物被害などが増加しており、瀬戸内市においても多くの被害相談が寄せられています。今回は、野生鳥獣による被害を防ぐための、正しい対策方法をご紹介します。

鳥獣被害対策の手順

野生鳥獣による被害を防ぐためには、次の3つの対策を「正しい手順」で「総合的」に取り組む必要があります。

①寄せない対策（集落環境整備）

収穫しない柿や栗、出荷せずに放置された野菜などを撤去する。人里や農地周辺のやぶや茂みを刈りはらう。

②入れない対策（自己防衛）

農作物を防護柵で囲い、野生鳥獣に味を覚えさせない。

③捕まえる対策（加害獣の捕獲）

田、畑、人里に執着した野生鳥獣を捕まえる。



①寄せない対策（集落環境整備）

収穫しない柿や栗、出荷せずに放置された野菜などは、野生鳥獣を寄せ付ける原因（エサ）となります。エサ場だと学習させないように、人里や農地周辺の環境を整備しましょう。また、やぶや茂みは野生鳥獣のひそみ場となります。しっかりと刈りはらい、見通しを良くしましょう。



野生鳥獣にとって、収穫しない果樹や野菜はごちそうです

令和3年度から新たに、集落環境整備などの鳥獣被害対策を支援する補助金制度が始まりました。詳しくは、産業振興課へお問い合わせください。

イノシシに出会ったら...

最近、イノシシが人里に現れ、車両などと接触する事故が発生しています。万が一イノシシと出会ってしまった場合は、次のように行動して下さい。

①刺激しない

イノシシは本来、警戒心が強く、憶病で注意深い動物ですが、驚いたりけがをしていたりすると向かってくる場合があります。見かけても刺激を与えず、興奮させないことが大切です。

②近づかない

ほとんどの場合、イノシシはしばらくすると自然と山へ帰っていきます。うり坊（子イノシシ）を見かけても、近くに親イノシシがいる可能性があるため、近づかないようにしましょう。

③ゆっくり後ずさる

イノシシの様子を見ながら、背中を向けずにゆっくりと後退し、静かにその場を離れましょう。



突発的な事故を防ぐため、イノシシの出没のおそれがある場所では特に夜に出歩くとときは、音や光で人の存在を知らせるようにしましょう。

身の危険を感じ、緊急を要する場合は、警察へ110番してください。